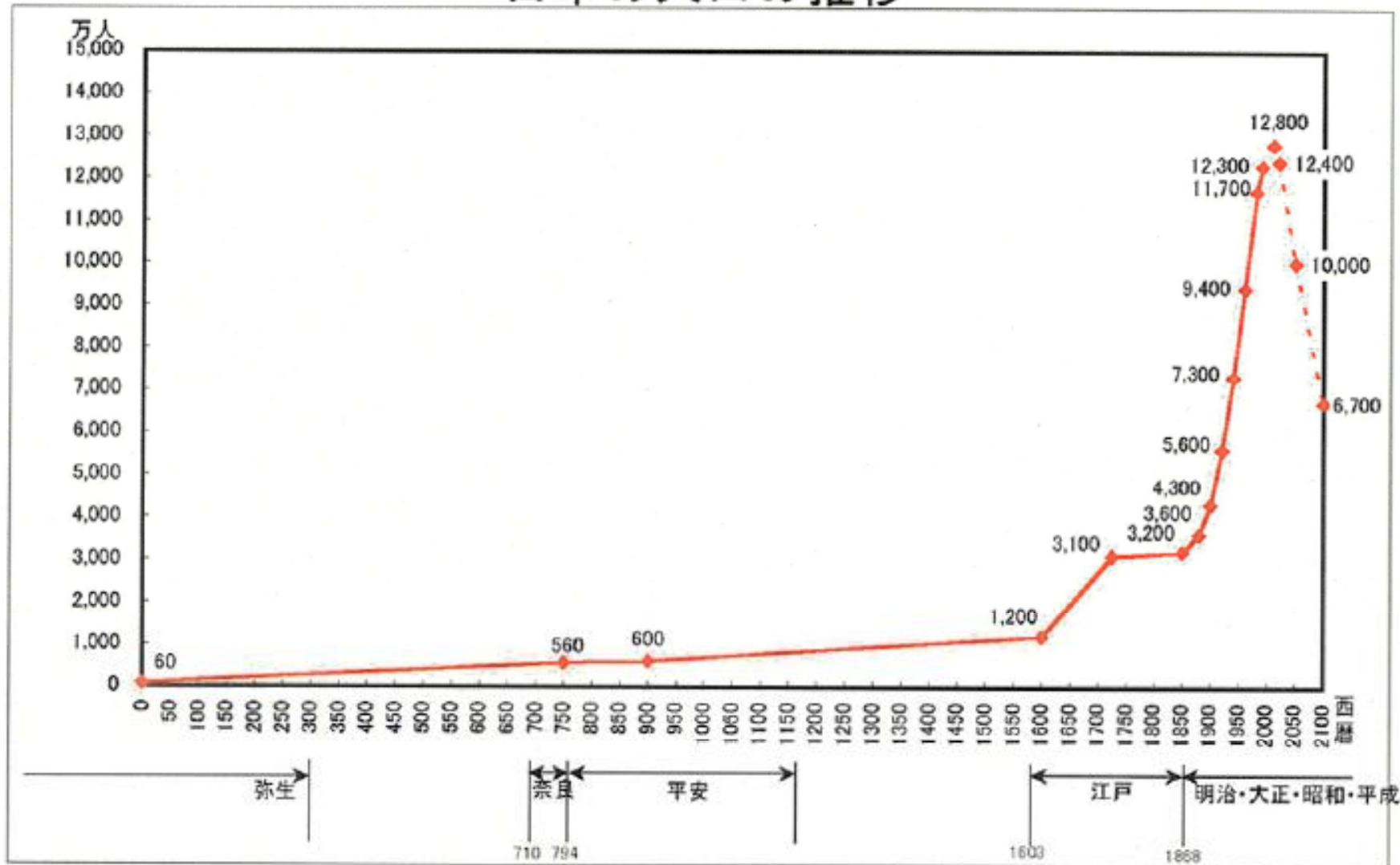


# 日本の河川行政における 河川の環境流量の誕生

(財)リバーフロント整備センター  
竹村公太郎

# 日本の人口の推移



出典:「国勢調査」

1850年以前は 鬼頭 宏「日本二千年の人口史」(PHP研究所)

将来人口は (財)日本人口問題研究所(中位推計)による。

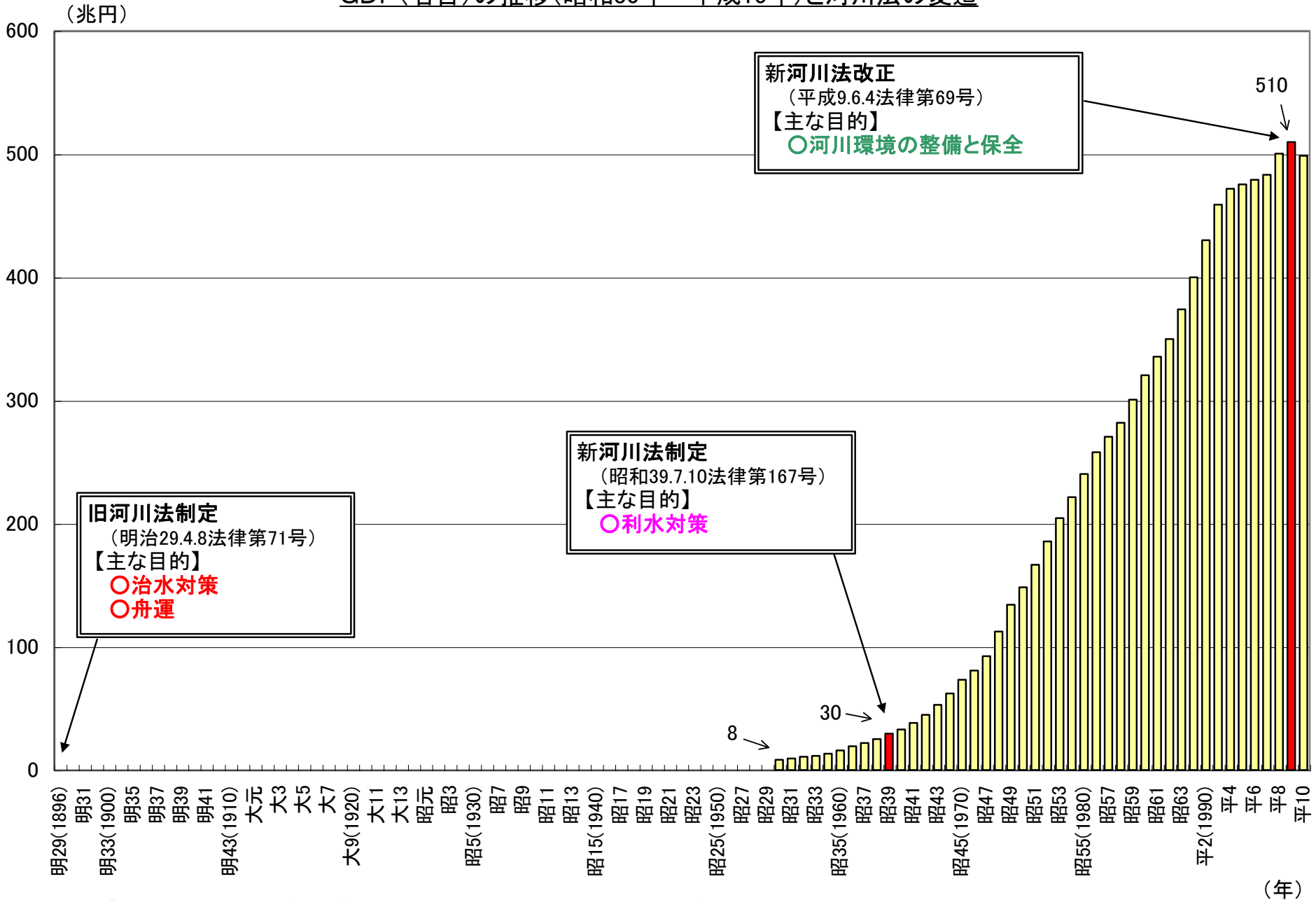
# 昭和の河川法

## 〔目的〕

### 第一条

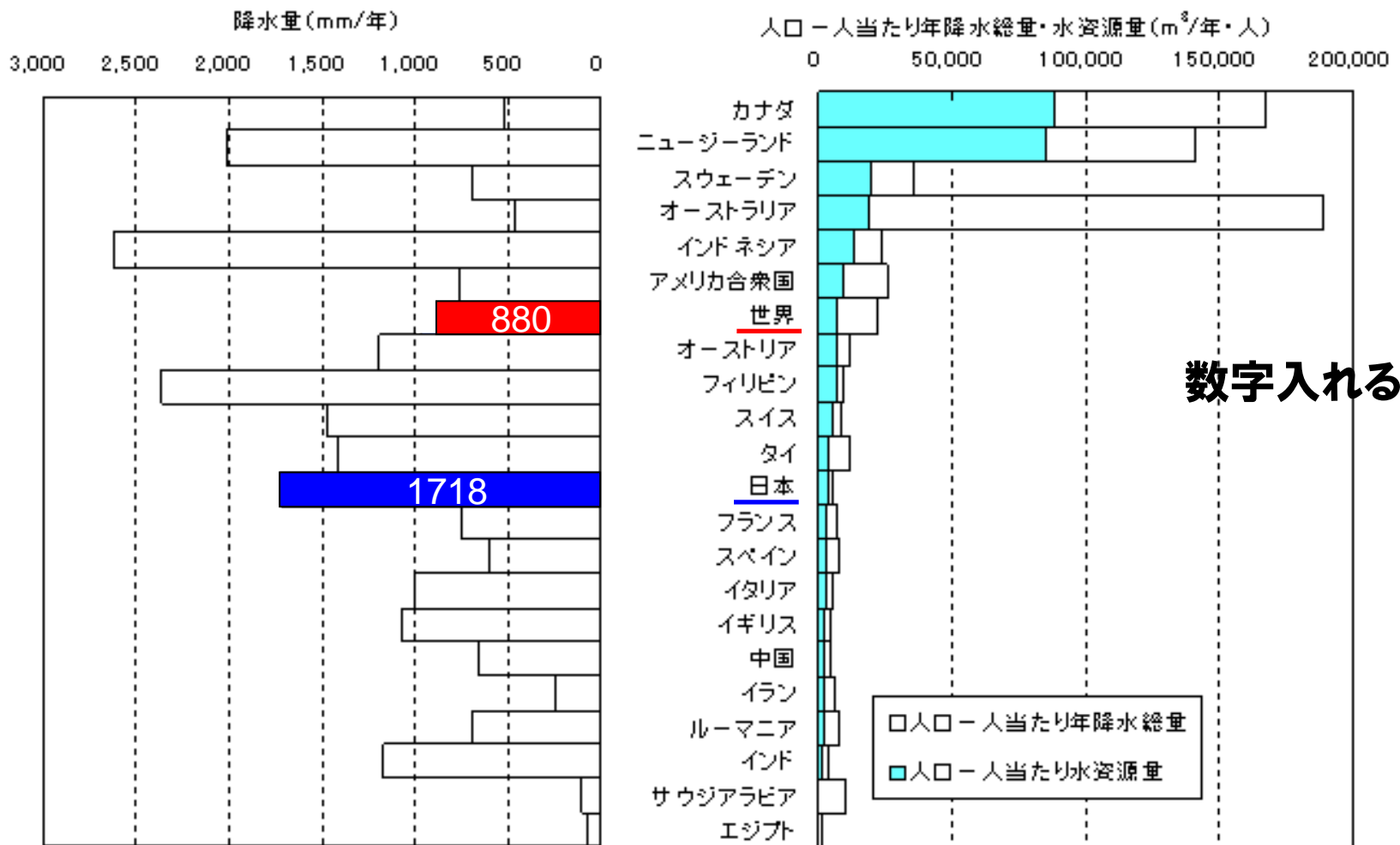
この法律は、河川について、洪水、高潮等による災害の発生が防止され、**河川が適正に利用され、及び流水の正常な機能が維持されるようにこれを総合的に管理することにより、国土の保全と開発に寄与し、もって公共の安全を保持し、かつ、公共の福祉を増進することを目的とする。**

# GDP(名目)の推移(昭和30年～平成10年)と河川法の変遷



(出典)「長期選及主要系列 国民経済计算報告 - 平成2年基準 - (昭和30年～平成6年)」〔経済企画庁(現内閣府)〕(昭和30年～平成6年)  
 「国民経済计算年報 平成12年版」〔 " 〕(平成7年～平成10年)

# 資料：基本理念（日本の水資源）



- (注) 1. 日本の降水量は昭和46年～平成12年の平均値である。世界及び各国の降水量は1977年開催の国連水会議における資料による。
2. 日本の人口については国勢調査（平成12年）による。世界の人口については United Nations World Population Prospects, The 1998 Revision における2000年推計値。
3. 日本の水資源量は水資源賦存量（4,235億m<sup>3</sup>/年）を用いた。世界及び各国は、World Resources 2000-2001(World Resources Institute) の水資源量（Annual Internal Renewable Water Resources）による。

河川環境行政の原点：昭和39年の大改正

—カスリーン台風後の治水ダム建設—



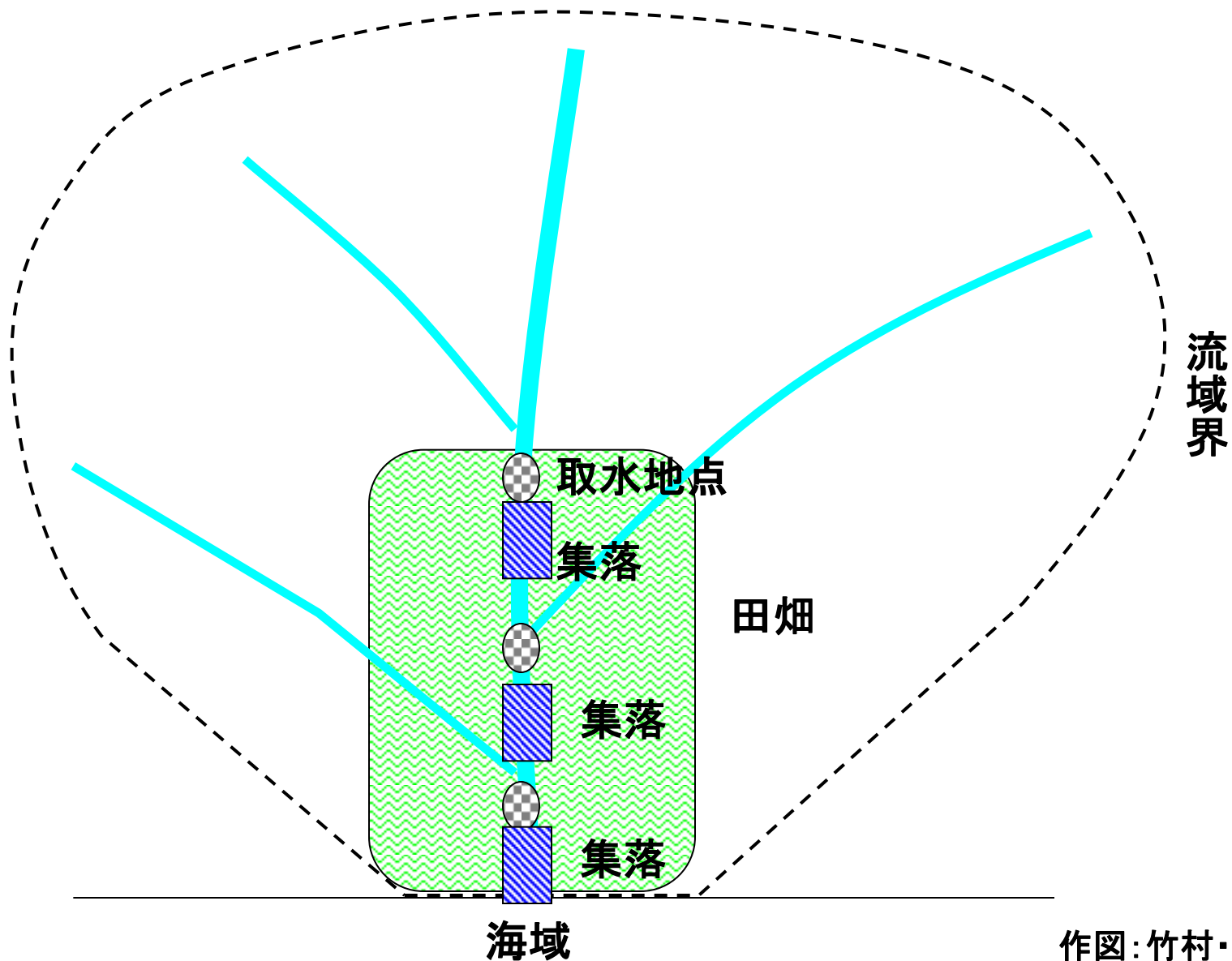
昭和22年9月カスリーン台風  
死者・行方不明1940人

不特定かんがい用水という概念の誕生

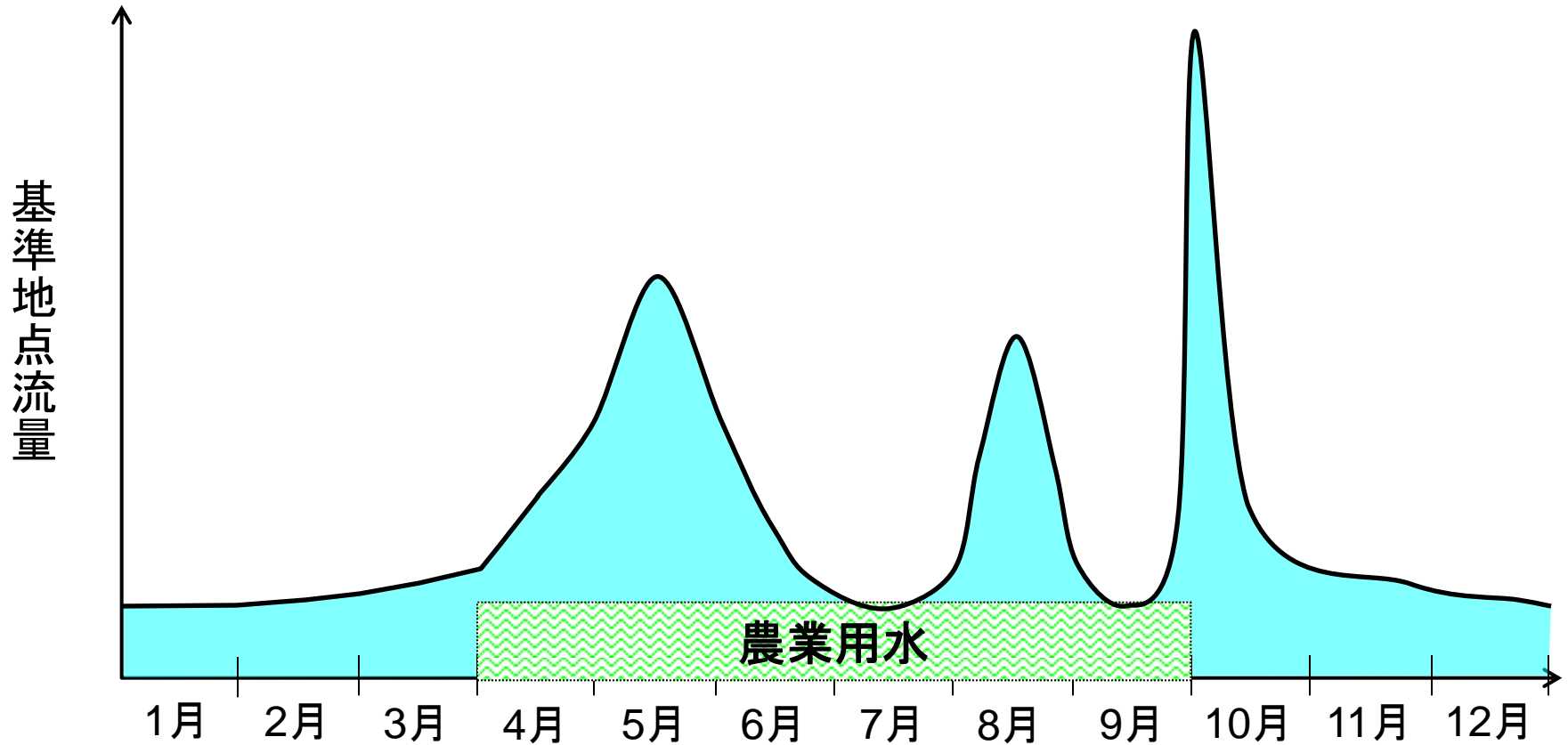


水争い葛藤の回避

# 近世(江戸)の流域イメージ

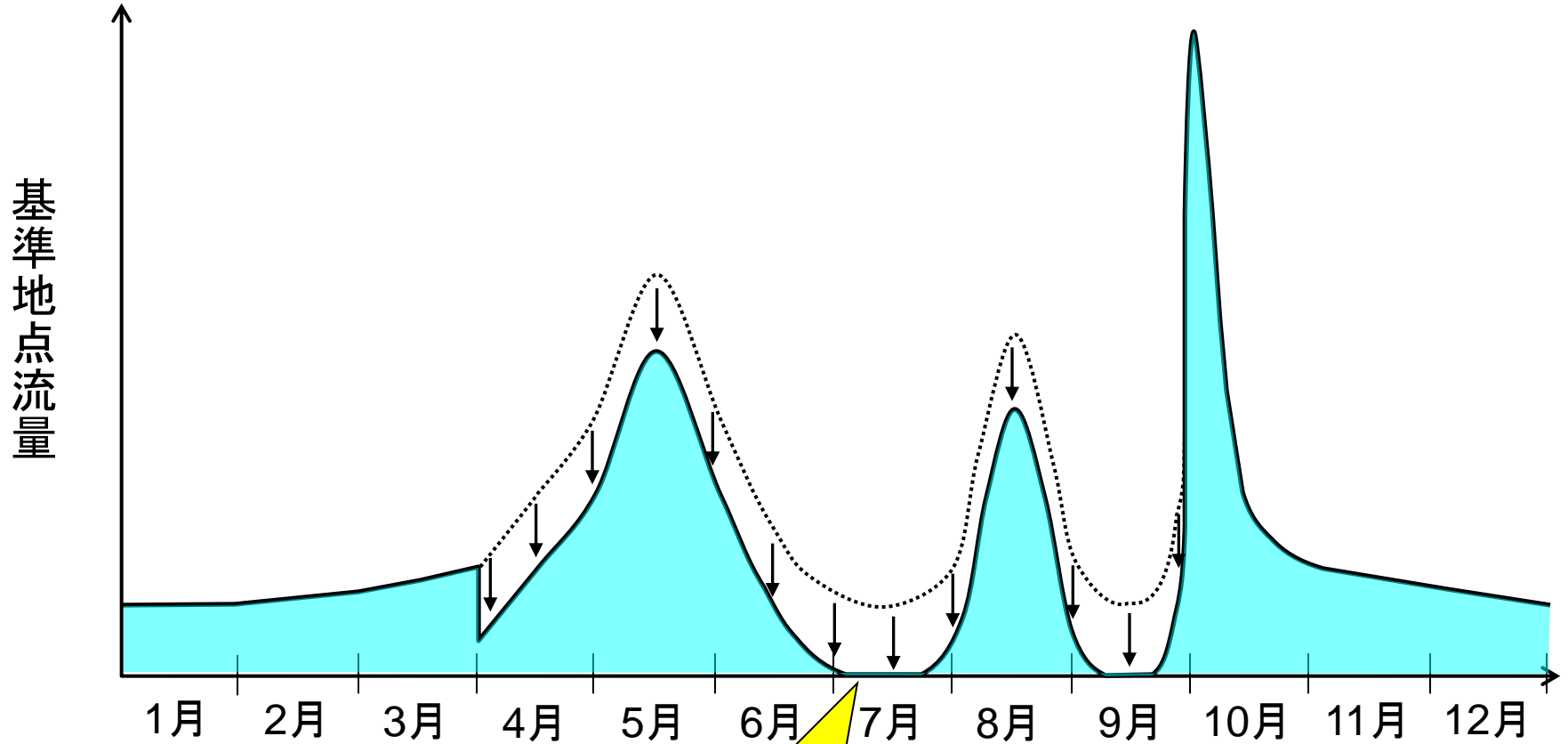


# 近世(江戸)の河川流量



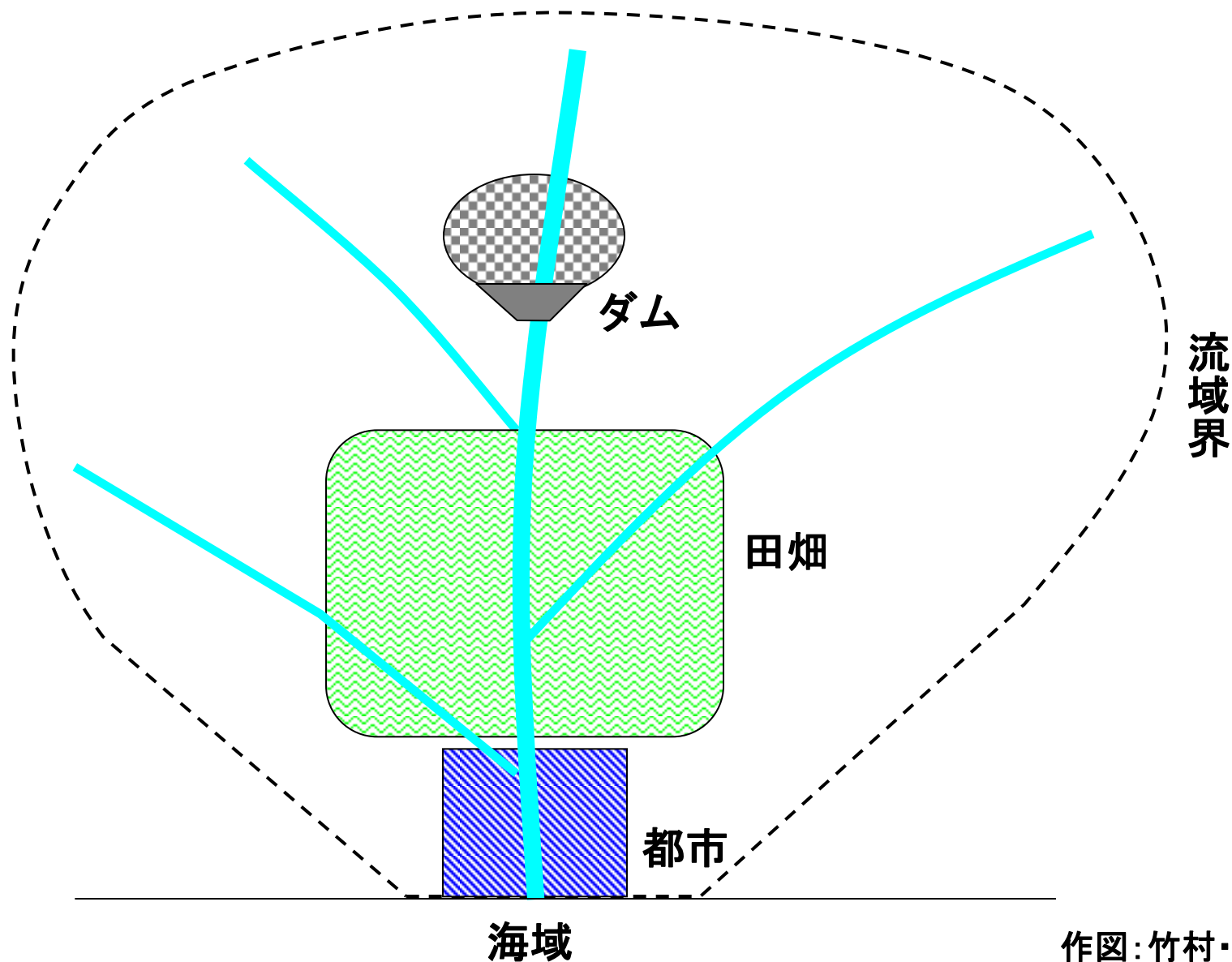
約3000年の間、河川流量は稲作に利用された。

# 近世(江戸)の農業用水の取水後の河川流量



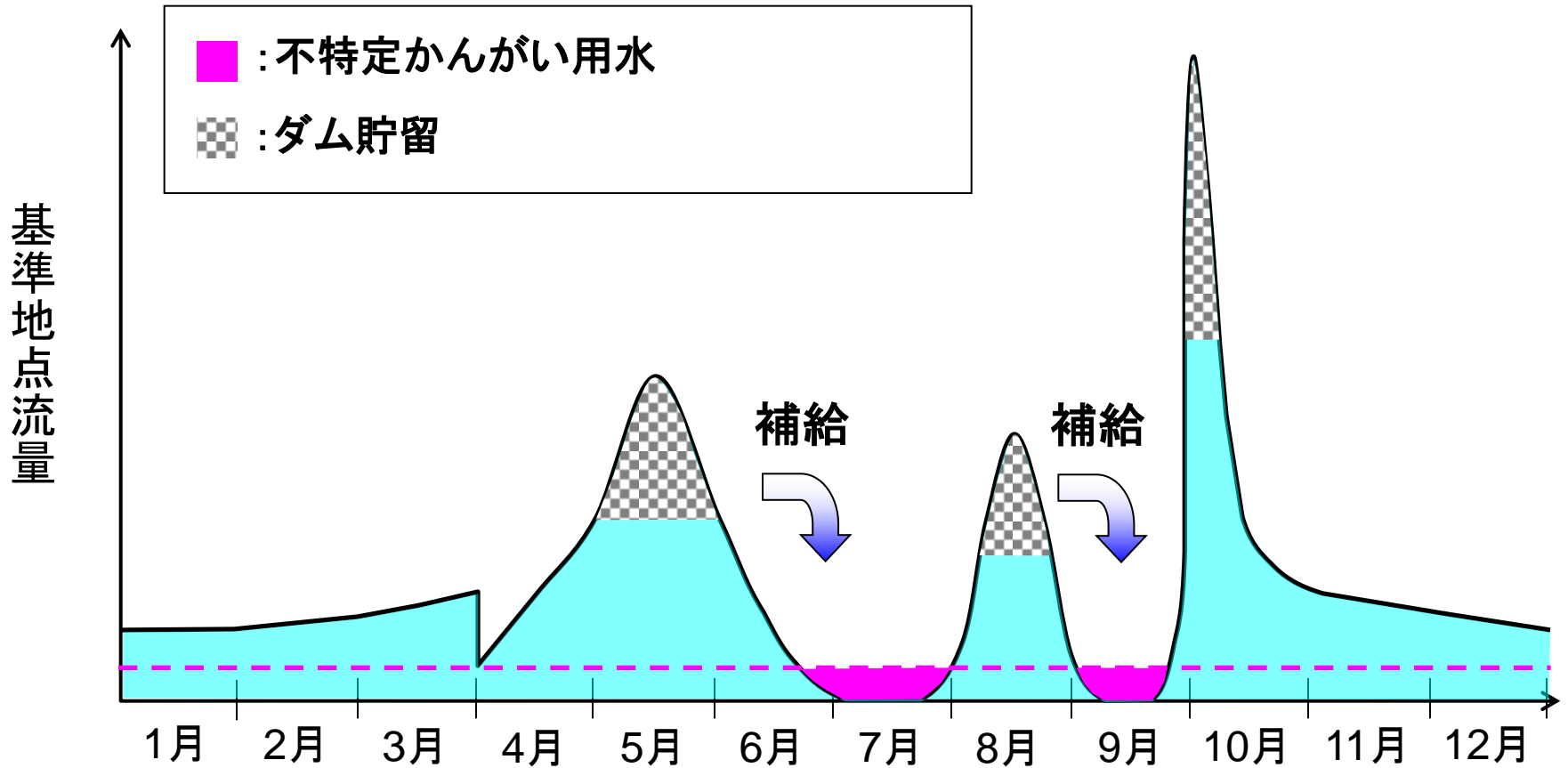
瀬切れ、水争い

# 藤原ダムの不特定かんがい用水イメージ



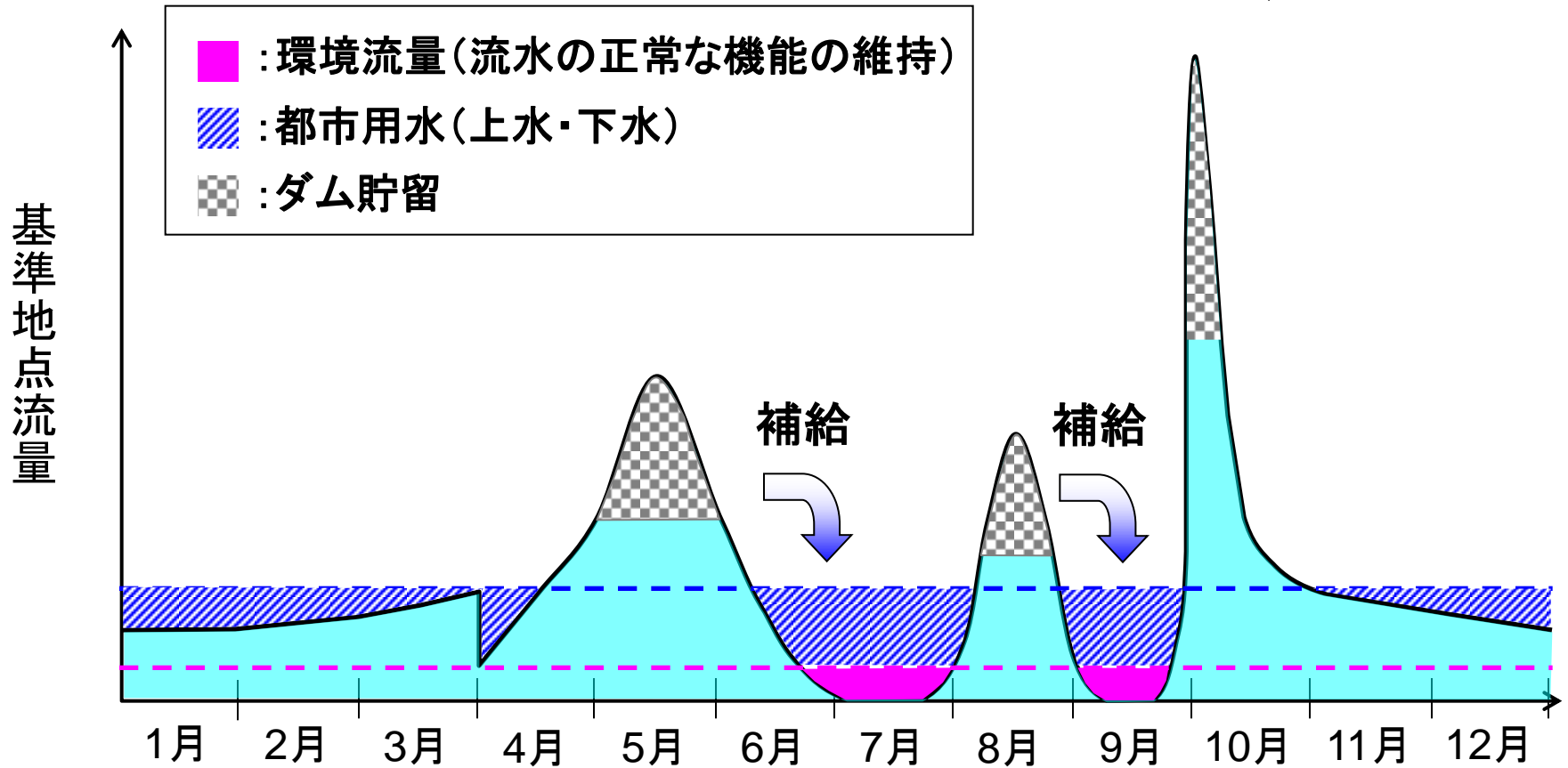
# 不特定かんがい用水の誕生

利根川水系藤原ダム(昭和30年)



# ダム貯留による 河川の環境流量と新規水資源開発

(既存の農水取得後)



# ダムからの補給の有無による流況の違い



位置図

①ダムからの補給を受けていない河川  
(中川)



(H13.4.25撮影)

②ダムからの補給を受けている河川  
(宮川)



(H13.4.25撮影)

③水田の状況



(H13.4.26撮影) (栃木県提供資料)



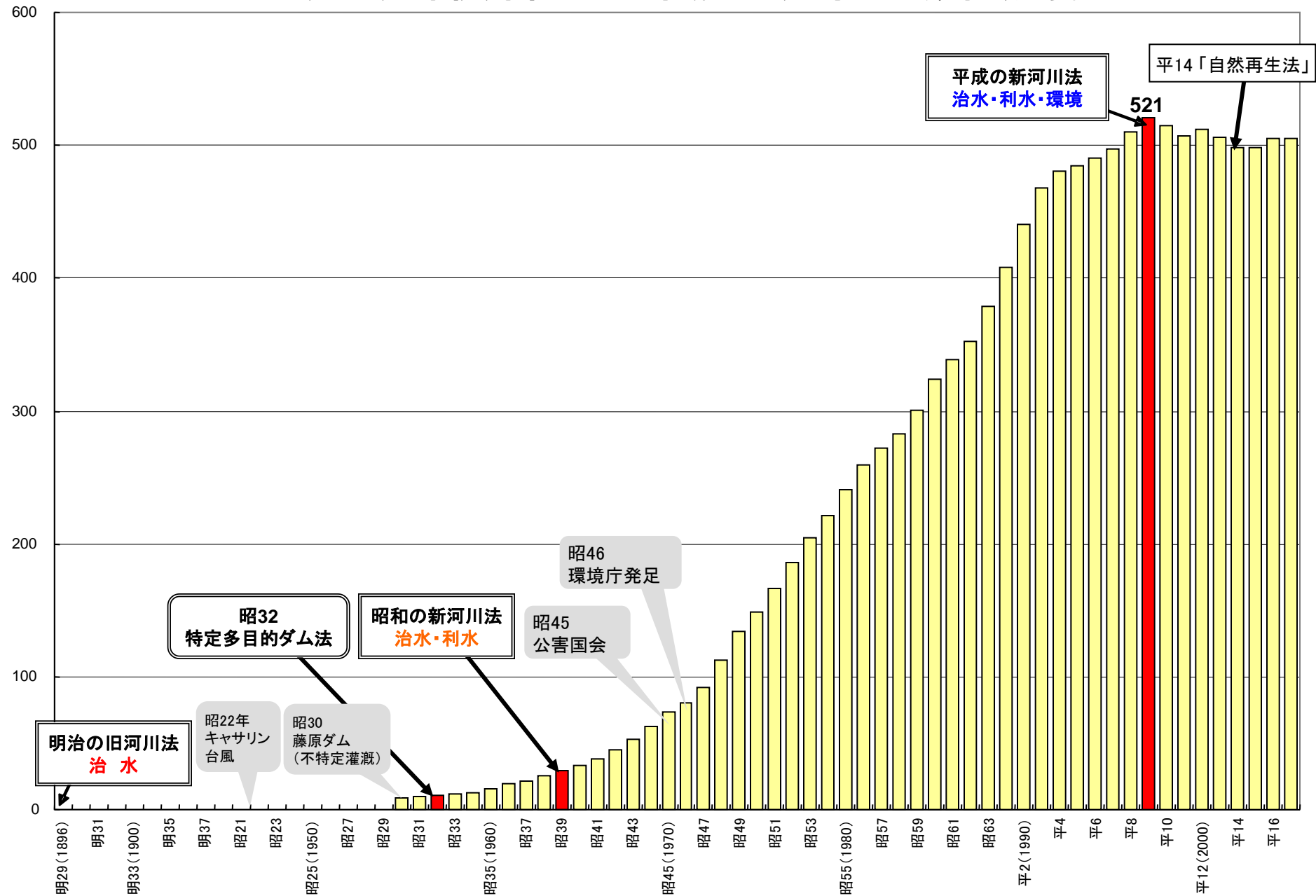
# 昭和の河川法

## 〔目的〕

### 第一条

この法律は、河川について、洪水、高潮等による災害の発生が防止され、河川が適正に利用され、及び流水の正常な機能が維持されるようにこれを総合的に管理することにより、国土の保全と開発に寄与し、もって公共の安全を保持し、かつ、公共の福祉を増進することを目的とする。

# GDP(名目)の推移(昭和30年～平成17年)と河川と環境行政の変遷



(出典:「長期勘及主要系列国民経済计算报告 平成2年基準」経済企画庁、「国民経済计算年報 平成12年度版」経済企画庁をもとに竹村作成)